

自動車部品主力のサンコール

花器やノートの商品化

一般向け進出 加工術や竹炭活用

自動車部品が主力のサンコールが初めて一般消費者向けビジネス(BtoC)に乗り出す。得意の金属加工技術や自社製の竹炭を生かし、ノートや花器を商品化した。6月1日

から大阪市の百貨店で期間限定販売する。同社は約10年前から包括連携協定を結ぶ宮津市の放置竹林の竹から活性炭を生産する地域貢献事業に取り組んでいる。竹炭は洗濯機



の液晶タッチパネルや自動車の計器盤パネル用インキとして供給してきたが、BtoC参入で市場を広げる。第1弾商品は4種類。京都市内産木材を使った一輪挿しは、ばねの強度を高める技術を使って年輪の線が浮き出るように加工し、仕上げに自社製の竹炭の顔料を塗った。京都のまち並みを描いたノートは竹炭のインキを使い、コースターは宮津市の放置竹林の間伐材を粉碎して成型した。同市特産の由良みかんの皮をアップサイクルした香も用意した。

6月1、2、8、9日に「なんばマルイ」(大阪市中央区)で販売する。新製品開発二

課の山口侑俊課長は「になるが、手応えがあ売したい」と話す。「当面はイベント販売ればオンラインでも販」(田中俊太郎)